



学校だより



7月号

令和4年6月30日
横浜市善部小学校
校長 福田 美穂

成長を促す”紆余曲折“

学校長 福田 美穂

夏の突き刺さるような日差しにも強く吹く風にも負けず、屋上プールでの学習を声を出さずにニコニコ顔で楽しんでいる子どもたち。「水はちょっと苦手だな。」と言っていた子も、冷たい水（本当は生ぬるいという感じですが）に気持ちよさを感じて、ジャンプしたり大股で歩いたりして水と戯れていました。3年生以下は学校のプールに入るのは初めてですので、水かさを少なくして圧迫感のないようにし、水に慣れるところから学習しています。



また、各学年で育てている植物や昆虫の世話にも力が入っています。3年生はカイコを通して、昆虫の一生を知るだけでなく、作られた繭を何かに使うのか、成虫にするのかを迷い、考えを出し合って次の学習につなげています。5年生は、地域の二宮さんに教えていただいた土づくりから苗植えまでしてみたものの、枯れてしまう苗が出てきて困っています。何がよくなかったのか、今後どうすればよいかを考えている最中で、ネット検索するよりも二宮さんに聞いた方がよいのではないかという思いが高まっているようです。

困っている、悩んでいることはとてもよい学習となっています。一つのことをああでもない、こうでもないと言い合って、なんとしても解決にたどり着こうとする気持ちの強さ。道はいくつかあり、やってみようと思う気持ちの高まり。その時の子どもたちの目の輝きこそ、生きる力に直結していると感じます。途中であきらめないで時間がかかっても解決する方法を模索することは、特に子どもの時期（成人になるまで）には必要で大事にしていきたいことです。友達関係についても、同じこと。周りの大人がしっかりと見守っていることは大切ですが、子どもの世界での解決力を高めていくべきです。先日の授業参観時「ネット端末が導入されても、人との『であい、ふれあい、ひびきあい』があ

ってこそ心豊かな生活が営める」と参観された地域の方からご意見をいただきました。私も同じ考えです。

今年は各所で七夕祭が開催されるようですね。手習いの上達を願って短冊を飾る風習ですが、世界平和や子どもたちの日常の過ごしやすさを短冊に書いて、織姫様と彦星様に祈りたいと思います。

最後になりましたが、暑い中児童の安全見守りや教育環境整備、お話し会等ご協力いただきありがとうございます。

